

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 21 日現在

機関番号：32683

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23530142

研究課題名(和文) 旧東欧の新興民主諸国における民主制の型 執行権と議会、与党と野党の関係の比較分析

研究課題名(英文) Stability and Effectiveness in Party Government: The Cases of Volatile Party Systems and Semi-Presidentialism in Central and Eastern Europe

研究代表者

中田 瑞穂 (Nakada-Amiya, Mizuho)

明治学院大学・国際学部・教授

研究者番号：70386506

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円、(間接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の結果、東中欧のチェコとスロヴァキア、南東欧のブルガリアにおいて、有権者の社会的属性や、左右軸上の位置ではその政党への支持を説明することが困難な新党が次々と生まれていることが確認された。90年代に形成された政党の影響力が低下し、これらの新党が連合政権に参加することによって、政策形成主体そのものが流動化している。ルーマニアでは、新党の登場はなく、半大統領制の大統領の強い影響力の下、既存政党のイデオロギー位置の変化と合従連衡が際立つ。政策形成過程は大統領と与野党政党指導者のバランスに左右されている。両者とも既存民主制のハイブリッドというより、恒常的に流動的な新しい型を示している。

研究成果の概要(英文)：In the Czech Republic, Slovakia and Bulgaria, numerous new parties has gained parliamentary seats in the recent elections. It is difficult to explain voter's support for these new parties by voter's social attribute. The "relatively established" parties from the 1990s has been losing support and are forced to accept these new parties as partners in governmental coalitions. It makes policy making more fluid. In Romania with its semi-presidential regime, established parties has changed their ideological stance or merged under the strong influence of the president. These polities cannot be classified as the hybrid or the transitory case of established democracies. Rather, they should be seen as a new type of democracy which is in flux constantly.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：新党研究 議会研究 執行権と議会 新興民主主義国

1. 研究開始当初の背景

既存民主主義体制を多数決型とコンセンサス型とに分類し、その指標として選挙制度や執行府と立法府の関係、内閣の類型、連邦制と単一国家等に注目したレイプハルトの研究 (A. Lijphart, *Patterns of Democracy: Government Forms and Performance in Thirty-Six Countries*, 1999) は、既に比較政治学における古典的業績となっている。しかし、90年代に行われたレイプハルトの研究では多くの新興民主主義諸国が分析対象とならなかった。これらの新しい民主制に対しては民主制が定着しているかいなかという分析視角が先行し、どのような民主制かという型を問う分析は乏しいといわざるを得ない。

一方、制度設計の段階では、旧東欧諸国の民主制は、立憲工学の興味深い実験場であった。比例代表制がとられ、コンセンサス型への指向が埋め込まれると同時に、大統領には直接選出、間接選出に関わらず、半大統領制に近い相対的に強い権限が与えられ、多数決型への傾斜もインプットされたのである。このようなハイブリッド型 (P.Mair, *Democracies*, in D.Caramani(ed.), *Comparative Politics*, Oxford, 2008, p.127) の制度設計は、旧東欧のみならず、広く新興民主主義諸国にみられるものであり、新民主制の安定と効率を目指したものであったが、今日実際にどのように機能しているのか、実態を実証的に分析すべき段階であった。

2. 研究の目的

本研究は、旧東欧の新興民主主義諸国に定着した民主制の型を、執行権と議会、議会における与党と野党の関係という観点から明らかにしようとするものである。特に、連合政権と政策形成課程における政党間関係に焦点をあて、計量的分析と個別事例の過程分析という複数の研究手法を組み合わせ、

東中欧のチェコとスロヴァキア、南東欧のルーマニアとブルガリアの4カ国の比較を行うことで、これらの民主制の特色を明確にするのが、他に見られない本研究の特徴である。

本研究では、執行権と議会、議会における与党と野党の関係という観点に焦点を絞って民主主義の特徴の分析を行った。

3. 研究の方法

研究の対象はチェコ、スロヴァキア、ルーマニア、ブルガリアの四カ国とドイツの旧東ドイツ地域であり、対象時期は、1990年代から2010年までとした。そのうえで、政党間関係に関する全般的傾向を探る計量分析と事例についての質的分析を行った。

(1) 計量分析：政権連合に参加する政党の政策的背景を、支持者の社会的属性と左右軸上の自己位置規定のデータを用いて分析する。その準備として各国の有権者と政党支持についてのデータの収集、データ分析についての理論的方針の検討を行う。

(2) 事例についての質的分析：本研究チームは歴史研究のバックグラウンドをもつことから、その経験を生かし、文書資料と議員、政党へのインタビューという手法を用いて、連合政権の形成、政策形成過程における政党間競合の様態を洗い出し、議会選挙における政党間競合の様態と比較しながら、その特色を明らかにした。この際、特に、直接選出の大統領をもつルーマニアに関しては、大統領選出過程における争点や政党間対立構造にも留意し、分析を行った。

4. 研究成果

(1) 政党間関係の計量的分析のための分析方法の確立

政党間関係についての計量的手法を用いた分析を行う方法について考察し、従来の政党のマニフェストの分析や専門家による位置推定ではなく、政党を支持している有権者の左右位置認識にもとづく分析方法を開発し、雑誌論文「有権者の中の政党システム：ヨーロッパ四ヶ国の分析」にまとめた。

さらに、この手法に加え、判別分析によって、有権者の政党支持を判別する変数を明らかにしたうえで、社会的属性などそれらの変数ごとの政党位置を分析する手法を精緻化した。

(2) 東・中欧諸国の政党間関係の計量的分析

(1)の結果に基づき、東・中欧諸国の選挙、政党、議会関係のデータの収集を行い、地域研究者と計量担当者が協力しながら、1990年代から2000年代までの政党間関係の分析を行った。その結果は、学会発表、の
アペンディックスとして公表した。この分析結果はデータは、東・中欧諸国の政党間関係とその推移を研究するための基礎となるものである。

(3) 東・中欧諸国の政党間関係のケースに関する計量的分析

(1)と(2)に基づき、東・中欧5カ国をケースに、分析を行った。分析では、新党の登場に焦点をあて、2013年6月の比較政治学会では、自由企画として「政党というビジネス
中・東欧における政党の可塑性と固定性」というパネルを立て、本共同研究の研究代表者と研究分担者が共同執筆した論文を報告した。成廣と中田は学会発表「東中欧における新党：政党システム、連合政権への影響を中心に」、藤嶋と成廣は学会発表「政党間競合と有権者の選好分布：ルーマニアとブルガリアの事例」を報告し、東・中欧の政党間関係と議会のあり方、政権との関係を位置づけた。さらに、詳細な分析の上で、学会発表
"New Parties' Effects on the Instability of Coalition Governments in East-Central Europe"として、フランス、ボルドーで行

れたヨーロッパ政治研究コンソーシアム (ECPR) の研究大会で報告を行った。この中で、新党の登場によって、90年代に形成された政党の影響力が低下し、これらの新党が連合政権に参加することによって、政策形成主体そのものが流動化していることが明らかになった。ルーマニアでは、新党の登場はなく、半大統領制の大統領の強い影響力の下、既存政党のイデオロギー位置の変化と合従連衡が際立つ。

(4) 政党間関係の変容についての質的分析のための理論枠組みの構築

政党間関係と大衆社会組織の変容についての理論的考察のための理論枠組みとして、大衆社会組織に基礎を置く政党が存在する場合には、サブカルチャの自立性が高くなくても、合意型民主制に近い民主制の作動がみられるという指摘を行い、著書『農民と労働者の民主主義』にまとめた。同書のなかでは、事例としてチェコスロヴァキアにおける議会内部の政党間関係、決定過程の叙述分析も行った。

また、を拡張し、戦後東西ヨーロッパを俯瞰する、政党間関係と社会の変容についての理論的考察を進めた。その結果、大衆組織政党、国民政党、カルテル政党と主要政党の性格が変異するに従い、民主制も質的变化を遂げていることが示された。国民政党までは有権者の代表としての機能を果たしていた政党は、カルテル政党以降、代表機能を失いつつある。この研究は、2014年6月29日の比較政治学会共通論題で報告し、論文集の序章として刊行の予定である。

(5) 政党間関係の変容についてのケース分析

(3)に基づき、中欧の政党間関係と、議会の在り方をその中で位置づける作業が実施できた。

中欧のケース分析のために、チェコ、スロヴァキア、旧東ドイツ地域について現地調査を行い、文献探索、政党関係者へのインタビューを行った。

その成果として、チェコをケースとした論文「政党のリンケージ戦略と政党間競合パターン チェコ共和国を事例に」、論文「オールド自由主義の呪縛」、学会発表 を発表した。

(6) 政党間関係の変容と政策過程についての分析の成果

政策過程に関する考察である。政党政治とジェンダー政策過程を扱った二つの論文(雑誌論文「政党のリンケージ戦略と政党間競合パターン」、雑誌論文「EUのジェンダー平等政策と国内ジェンダー・パラダイム」)で、チェコの具体例について考察した。さらに、近年の議会研究の動向についてサーベイ

し、「中東欧議会における法案制定過程」として、研究会にて報告した。

(7) 半大統領制の下での大統領と議会の関係

この点については、次の成果をえることができた。

理論的分析枠組みの構築

まず、図書『国王カロル対大天使ミカエル軍団 - ルーマニアの政治宗教と政治暴力』の中で、執行権と議会の関係について、歴史的ケースを用いて理論的な分析を行った。

また、大統領の権限を4種に分け、それぞれを点数化して示すことで、半大統領制分析の画期的な分析枠組みを得た。

さらに、半大統領制という制度的要因に影響について、ルーマニアのケースを用いて理論的分析を行う研究を比較政治学会と、ロシア・東欧学会(学会報告)で報告し、さらに雑誌論文「「プレイヤーとしての大統領」トライアン・バセスク - 比較の視座から見たルーマニアの半大統領制 - 」を執筆した。

次に、ルーマニアを中心に、現地調査を行い、文献探索、政党関係者へのインタビューを行った。これらのルーマニアの質的研究から得られた情報に、それを応用して、ルーマニアの執行権、議会関係を分析する報告を、比較政治学会及びロシア・東欧史学会で行い、そこでのフィードバックを反映し、さらに論文を執筆中である。

これら一連の成果に基づく結論として、中欧諸国とブルガリアでも、ルーマニアでも、民主制の方は、両者とも既存民主制のハイブリッドというより、恒常的に流動的であるところに本質がある新しい型を示している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計9件)

藤嶋亮「南東欧諸国における寡頭的議会制からの移行 - ルーマニアとブルガリアの比較から - 」、日本比較政治学会年報『体制転換 / 非転換の比較政治』(ミネルヴァ書房)、査読有、第16号、2014年6月、129-155。

成廣孝「スコットランドにおけるマルチ・レベル状況の進行:2011年スコットランド地域議会選挙調査から(1)」、『岡山大学法学会雑誌』、査読無、63巻4号、2014年

藤嶋亮「「プレイヤーとしての大統領」トライアン・バセスク - 比較の視座から見たルーマニアの半大統領制 - 」、『ロシア・東欧研究』、査読有、第41号、2013年3月、1-16

網谷龍介「比較政治研究における『歴史』の変容」『同時代史研究』、査読無、第6号、2013年、27-35頁。

Ryosuke Amiya-Nakada "Experts and Academics as Ideas Generators and Promulgators: Identifying the Social Policy Community of the European Union." University of Tokyo Journal of Law and Politics, 査読無、9, 2012, 162-182.

中田瑞穂「EUのジェンダー平等政策と国内ジェンダー・パラダイム チェコ共和国を事例に」『日本比較政治学会年報』、査読有、13、2012年、101-133.

中田瑞穂「政党のリンケージ戦略と政党間競合パターン チェコ共和国を事例に」『名古屋大学法政論集』、査読無、第246号、2012年9月、59-106.

成廣孝「有権者の中の政党システム：ヨーロッパ四ヶ国の分析」『岡山大学法学会雑誌』、査読無、61、2011年、267-302.

網谷龍介「オールド自由主義の呪縛？ EU 社会労働政策における集団と個人」EUIJ-Kyushu Review、査読有、第1号、2011年、123-154.

〔学会発表〕(計10件)

網谷龍介「マクロ変動の類型化からメソ過程の変数化へ ヨーロッパ政治研究における歴史の扱いについて」日本国際政治学会、新潟・朱鷺メッセ、2013年10月27日。

Ryosuke Amiya-Nakada, "Lightening of Citizenship and its Implication for Social Policy: 'Social Security Lite' in the Making?"、日本政治学会、札幌・北海学園大学、2013年9月16日。

Mizuho Nakada-Amiya and Takashi Narihiro, "New Parties' Effects on the Instability of Coalition Governments in East-Central Europe" (Coauthor: Narihiro Takeshi) 7th ECPR General Conference, 6th September 2013, Sciences Po Bordeaux, Domaine Universitaire.

藤嶋亮、成廣孝「政党間競合と有権者の選好分布：ルーマニアとブルガリアの事例」、日本比較政治学会第16回研究大会(2013年6月22日)、於神戸大学

成廣孝、中田瑞穂「東中欧における新党：政党システム、連合政権への影響を中心に」成廣孝と共同、自由企画3「政党というビジ

ネス 中・東欧における政党の可塑性と固定性」、2013年6月22日、於神戸大学

藤嶋亮「「プレイヤーとしての大統領」トリアン・バセスク - 比較の視座から見たルーマニアの半大統領制 - 」、2012年10月10日、ロシア・東欧学会2012年度研究大会、於同志社大学

藤嶋亮「南東欧におけるポスト寡頭制への移行」日本比較政治学会、2012年度研究大会、2012年06月24日、於日本大学

Ryosuke Amiya-Nakada, "The Effect of the Judiciary-Induced Policy Development: Collective Order versus Individual Rights in EU Social and Employment Policy." 19th International Conference of Europeanists, ボストン・Omni Parker House (アメリカ合衆国)、2012年3月24日。

網谷龍介「オールド自由主義の呪縛？ EU 社会労働政策における集団と個人」日本 EU 学会、松山・松山大学、2011年11月5日。

Ryosuke Amiya-Nakada, "The Effect of the Judiciary-Induced Policy Development: Collective Order versus Individual Rights in EU Social and Employment Policy." 5th General Conference of the European Consortium for Political Research, レイキヤヴィク・University of Iceland (アイスランド)、2011年8月26日。

〔図書〕(計6h件)

成廣孝「選挙」「自由民主党」、梅川正美・阪野智一・カ久昌幸編『イギリス現代政治(第二版)』、成文堂、2014年(近刊)

網谷龍介・伊藤武・成廣孝編『ヨーロッパのデモクラシー [改訂第2版]』ナカニシヤ出版、2014年、全574頁、藤嶋亮「半大統領制」171~173 及び「ルーマニア・ブルガリア」501-544、成廣孝「イギリス」176-215、「ヨーロッパの選挙制度」27-30、中田瑞穂「中欧諸国」355-391、網谷龍介「ヨーロッパ型デモクラシーの特徴」1-26.

成廣孝・黒神直純編著『多文化共生の潮流：内外の法と政治から岡山県の施策のあり方を考える』岡山大学出版会、2013年、222頁。

藤嶋亮『国王カロル対大天使ミカエル軍団 - ルーマニアの政治宗教と政治暴力』(彩流社、2012年、445頁。

中田瑞穂『農民と労働者の民主主義』名古

屋大学出版会、2012年、454頁

林忠行、仙石学編『ポスト社会主義期の政治と経済 旧ソ連・中東欧の比較』北海道大学出版会、2011年、346頁、中田瑞穂「政党戦略と政党間競合 東中欧政党システムにおける二極競合化？」109-143

〔産業財産権〕
出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中田 瑞穂 (NAKADA-AMIYA, Mizuho)
明治学院大学・国際学部・教授
研究者番号：70386506

(2) 研究分担者

藤嶋 亮 (FUJISHIMA, Ryo)
神奈川大学・法学部・非常勤講師
研究者番号：70554583

(3) 研究分担者

成廣 孝 (NARIHIRO, Takashi)
岡山大学・社会文化学研究科・教授
研究者番号：90335571

(4) 研究分担者

網谷 龍介 (AMIYA-NAKADA, Ryosuke)
津田塾大学・学芸学部・教授
研究者番号：40251433